

動物と人をつなぐ橋

宮古市立田老第三小学校

六年

舘崎

太一

僕の住む摂待には、たくさん動物が出没する。猿、熊、カモシカ、アサグマ、タヌキ、キツネにリス。そして、近くの国道では、それらの動物が車にひかれ死んでいるのを目にする。ことがよくある。国道は、山と山を分断する形でしかれている。更に、震災以来、復興道路として自動車専用道路や新たなトンネル

の建設が進んだこともあってか、動物の無残な姿を見ることが多くなっただよりに思う。アニマルパスウェイというものを知り、僕らのように山間部に住む者にとつてはぜひ必要なものだと思つた。動物は本来、山とか森に住んでいて、多分、車のない時代にはうまく共存していたと思われ、しかし人間がその知恵と技術を駆使し、車という便利なものを開発し、そのための利便性を追求したのが道路建設だと言えるだろう。道路は山と山

を分断する形で作られている。これでは我々人間が動物の生活圏を荒らしている形になる。これは道路に限ったことではなく、特に震災地区である僕のおふるさは住宅建設でも同様のことが言えると思う。

今、日本だけでなく世界中で、環境保護という言葉が叫ばれている。地球温暖化や酸性雨の問題などが代表的だが、絶滅危惧種と言われる動物が増えるのを防ぐこともその一つと言えらるだろう。このアニマルパスウェイ

を守ることができるのはヤマネヤリスなどの小動物だが、これを守ることで大型の肉食動物のえさとなる動物の数が確保できるということにつながるだろう。岩手のレッズデータに載っているフクロウやイヌワシなどの保護になると言えらると思う。また、小動物たちが森林の中の活動も森や山にとっては重要で、虫をえさにすることから、害虫の増えすぎを防ぐし、地上での活動が腐葉土作りの手伝いもするだろう。岩手では盛岡にリスのための

アニマルパスウェイがあるという。リスはど
 んぐりやクルミを地中に埋める習性があるが
 多くが堀り起こされることなく、種として再
 ひ芽を出すそうだ。これは、広葉樹を増やす
 手伝いとなり、より豊かな腐葉土が作られる
 元となるはずだ。

アニマルパスウェイの普及活動をしている
 湊さんが、その建設のために小動物の生活範
 囲を調べる活動をしたときのこと。動物の生
 活跡があったところに色テープをつけた結果

人間が作った道路脇にたくさんテープが風
 になびいたという。湊さんには「困っている
 動物の声」に聞こえたそうだ。僕の近くにも
 そういう動物の声にならない声かひそんでい
 るように思う。僕ら人間の便利が、決して動
 物達の不便とならないようにする事が必要だ
 と分かった。この地球上に住まう仲間として
 人間だけが持つ知恵とあたたかな心を人間
 だけのためだけにでなく、身近な動物たちのた
 めにも分けてあげられたらと思う。